

(別添1)

No.	
策定年月	令和3年4月
見直し年月	令和〇年〇月

麦・大豆生産性向上計画

都道府県名：滋賀県

1. 麦・大豆の生産性向上に向けた方針

(1) 麦・大豆の生産性向上・産地強化に向けた方針

米を中心とした水田農業を基幹とする本県では、需要の変化に柔軟に対応する米づくりと併せ、自給率の向上が求められる麦・大豆について、全国でもトップクラスの作付面積を有する本県の強みを活かし、その生産力を高める本作化を進めるとともに、非主食用米や園芸品目等との組み合わせで農業所得の最大化を図るなど、時代の変化に応じた力強い水田農業を確立する必要がある。

(2) 県で推進する団地の基準等

滋賀県においては、作業効率等を考慮し、「団地」は4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地とする。ただし、長浜市については、これまでの団地化推進の基準としてきた1ha以上の場合を団地とする。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

・麦については、本県の小麦は、主に菓子用や日本麺用として製粉業者に販売されているが、品種によって需給のミスマッチ、逆ミスマッチの状態が生じていることから、実需からの要望に応じた生産を図る必要がある。一方で、大麦については、県内外の麦茶や精麦業者へと販売されているが、近年の豊作の影響で流通在庫が増加しており、需給のミスマッチの状態であることから、契約に基づく生産を進めるとともに、需要のある麦種や品目への転換等の対策を図っていく必要がある。

・大豆については、主に豆乳、豆腐、煮豆用として関西を中心に販売されているが、近年、不作が続いており需要に応じた供給ができておらず、安定生産に向けた技術対策や品種の検討が必要である。

(2) 生産における現状と課題

作付面積は、麦、大豆それぞれ全国7位、全国6位と主産県であるが、単収は、麦、大豆それぞれ全国14位、全国22位であり単収の向上が課題である。

この原因としては、水田での栽培がほとんどであるため排水不良による湿害、転作率の増大に伴う地力低下、担い手への農地の集約が急速に進み、1農家あたりの作業面積が拡大することにより、適期作業の逸失等が考えられ、収量を向上させるための対策が急務である。

(3)実績

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)			
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	
小麦	農林61号	(5,040) 5,060	(4,386) 4,406	(3,767) 3,787	(285) 285	(322) 322	(326) 326	(14,364) 14,421	(14,123) 14,187	(12,280) 12,346	
	ふくさやか	(1,518) 1,518	(1,416) 1,416	(1,367) 1,367	(285) 285	(322) 322	(326) 326	(4,326) 4,326	(4,560) 4,560	(4,456) 4,456	
	シロガネコムギ	(237) 237	(226) 226	(168) 168	(285) 285	(322) 322	(326) 326	(675) 675	(728) 728	(548) 548	
	びわほなみ	(8) 8	(192) 192	(530) 530	(285) 285	(322) 322	(326) 326	(23) 23	(618) 618	(1,728) 1,728	
	ミナミノカオリ	(134) 134	(165) 165	(243) 243	(285) 285	(322) 322	(326) 326	(382) 382	(531) 531	(792) 792	
	その他	(43) 43	(45) 45	(65) 65	(285) 285	(322) 322	(326) 326	(123) 123	(145) 145	(212) 212	
大麦	ミノリムギ	(116) 116	(0) 0	(0) 0	(251) 251	(384) 384	(420) 420	(291) 291	(0) 0	(0) 0	
	ファイバースノウ	(465) 465	(1,010) 1,010	(1,380) 1,380	(251) 251	(384) 384	(420) 420	(1,167) 1,167	(3,878) 3,878	(5,796) 5,796	
	サチホゴールド	(55) 55	(53) 53	(59) 59	(424) 424	(379) 379	(415) 415	(233) 233	(201) 201	(245) 245	
はだか麦	イチバンボシ	(0) 0	(0) 0	(21) 21	(355) 355	(503) 503	(394) 394	(0) 0	(0) 0	(83) 83	
	ダイシモチ	(44) 44	(66) 66	(50) 50	(355) 355	(503) 503	(394) 394	(156) 156	(332) 332	(197) 197	
作物計		(7,660) 7,680	(7,559) 7,579	(7,650) 7,670	(284) 284	(332) 332	(344) 344	(21,754) 21,798	(25,096) 25,180	(26,337) 26,402	

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)			
		平成29年産	平和30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平和30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平和30年産	令和元年産(現状)	
大豆	-	(6,670) 6,700	(6,650) 6,990	(6,650) 6,990	(139) 139	(66) 66	(117) 117	(9,271) 9,313	(4,389) 4,613	(7,781) 8,178	
作物計		(6,670) 6,700	(6,650) 6,990	(6,650) 6,990	(139) 139	(66) 66	(117) 117	(9,271) 9,313	(4,389) 4,613	(7,781) 8,178	

- ※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。
- ※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。
- ※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。
- ※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。
- ※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

3. 課題解決に向けた取組方針・計画

(1)取組方針

①需要に応じた生産と販売の実現

麦については、実需と連携し、「農林61号」を収量性や加工適性に優れる「びわほなみ」へ切り替えることにより、ミスマッチを解消するとともに、他の品種も需要に応じた作付けを行う。また、「サチホゴールド」は主な特性を引き継ぎ、ビールの鮮度の劣化原因である原麦リポキシゲナーゼのない「ニューサチホゴールド」への全面切り替えを行う。大豆については、需要に対して供給が足りない状況であることから、安定生産を図るため排水対策等の基本技術の励行による収量向上に努めるとともに、作付の拡大を推進する。また、「ことゆたか」を裂莢性が改善された「ことゆたかA1号」へ全面的に切り替える。

②団地化の推進

産地交付金や水田麦・大豆生産性向上事業等を活用し、これまでから取り組まれている集落ぐるみによる団地化やブロックローテーションの取組を引き続き支援する。

③土づくり

地力の回復に向けては、県内土壌の最新の地力実態を調査した結果をデジタル地図に表示し、これに基づいた土づくりを指導する取組を進める。また、地力の簡易分析法の実用化を進め、地力分析結果に基づく施肥を推進する。

④排水改良

排水の改善に向けては、明渠や弾丸暗渠、心土破碎等の施行を進めるとともに、その効果的な施工方法を指導し、周知を図る。

※ ①需要に応じた生産と販売の実現、②団地化の推進については必ず記載する。その他必要な項目を産地の実態に即して記載すること。

※ 都道府県等で開発した技術等に取り組む場合は本項目に技術名を記載すること。

3. 課題解決に向けた取組方針・計画

(2) 計画

① 生産量

作物名	品種名	令和2年産(現状)						令和8年産(目標)						備考
		面積(ha)		単収(kg/10a)		生産量(t)		面積(ha)		単収(kg/10a)		生産量(t)		
小麦	農林61号	(3,767)	3,787	(326)	326	(12,280)	12,346	(770)	770	(360)	360	(2,772)	2,772	主にびわほなみに転換
	ふくさやか	(1,367)	1,367	(326)	326	(4,456)	4,456	(1,350)	1,350	(360)	360	(4,860)	4,860	
	シロガネコムギ	(168)	168	(326)	326	(548)	548	(100)	100	(360)	360	(360)	360	
	びわほなみ	(530)	530	(326)	326	(1,728)	1,728	(4,020)	4,020	(360)	360	(14,472)	14,472	主に農林61号から転換
	ミナミノカオリ	(243)	243	(326)	326	(792)	792	(280)	280	(360)	360	(1,008)	1,008	
	その他	(65)	65	(326)	326	(212)	212	(100)	100	(360)	360	(360)	360	
大麦	ファイバースノウ	(1,380)	1,380	(420)	420	(5,796)	5,796	(1,230)	1,230	(425)	425	(5,228)	5,228	
	サチホゴールド	(59)	59	(415)	415	(245)	245	(0)	0	-	-	(0)	0	ニューサチホゴールドに全面転換
	ニューサチホゴールド	(0)	0	-	-	(0)	0	(50)	50	(420)	420	(210)	210	
はだか麦	イチバンボシ	(21)	21	(394)	394	(83)	83	(20)	20	(400)	400	(80)	80	
	ダイシモチ	(50)	50	(394)	394	(197)	197	(50)	50	(400)	400	(200)	200	
作物計		(7,650)	7,670	(344)	344	(26,337)	26,402	(7,970)	7,970	(371)	371	(29,550)	29,550	

作物名	品種名	令和元年産(現状)						令和8年産(目標)						備考
		面積(ha)		単収(kg/10a)		生産量(t)		面積(ha)		単収(kg/10a)		生産量(t)		
大豆	-	(6,650)	6990	(117)	117	(7,781)	8,178	(7,260)	7,260	(200)	200	(14,520)	14,520	
作物計		(6,650)	6990	(150)	117	(7,781)	8,178	(7,260)	7,260	(200)	200	(14,520)	14,520	

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

※ 表は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

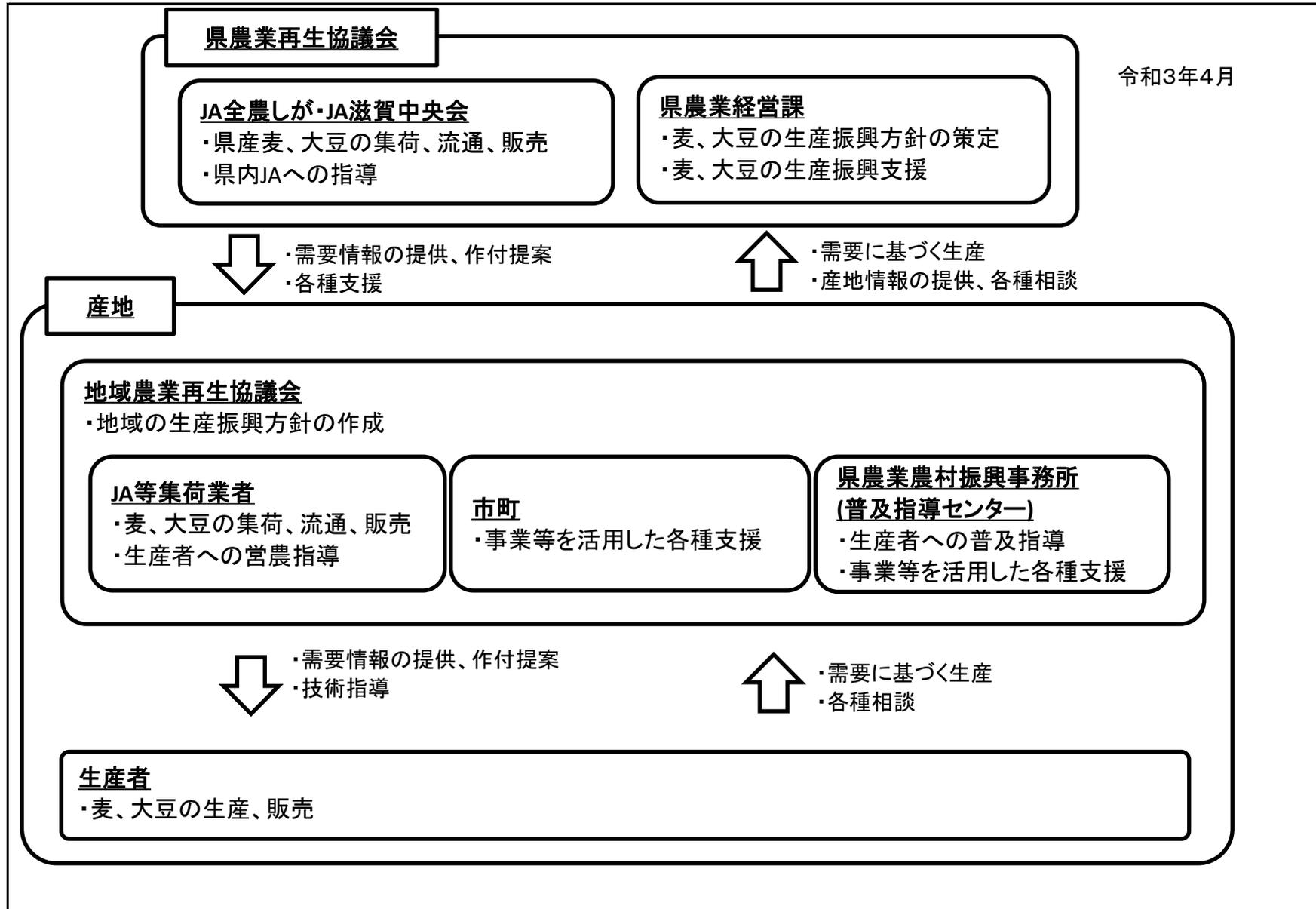
※ 現状値は、計画策定時に数値が把握できる直近の年産を記載する。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 直近年が災害等により直近年の記載が適当でない場合は、現状値を7中5とすることが出来る。その場合備考欄に明記すること。

※ 作付面積、生産量以外の目標を設ける場合は適宜行を追加して記載すること。

4. 推進体制及び役割



5. 他計画・プラン等との連携

	連携する計画・プラン等名称	作成年	備考
1	滋賀県水田収益力強化ビジョン	毎年	
2	滋賀県農業・水産業基本計画	平成28年3月	令和3年度改定予定
3			
具体的連携内容 本計画の実施に当たっては、県の「滋賀県農業・水産業基本計画」との整合を図るとともに、本計画の内容を、毎年作成する滋賀県収益力強化ビジョンに反映させることとする。			

6. 活用予定の事業

関連	事業名	備考

※県段階で想定している事業名について、記載すること。

※別紙第6の事業に該当する場合は、「○」を記載すること。その他の事業を活用する場合は「-」。

※備考欄には、活用する時期や具体的な取組内容を記載すること。